

梅堂
國政
画

川上
鼠邊著



國定忠次

義名の高嶋

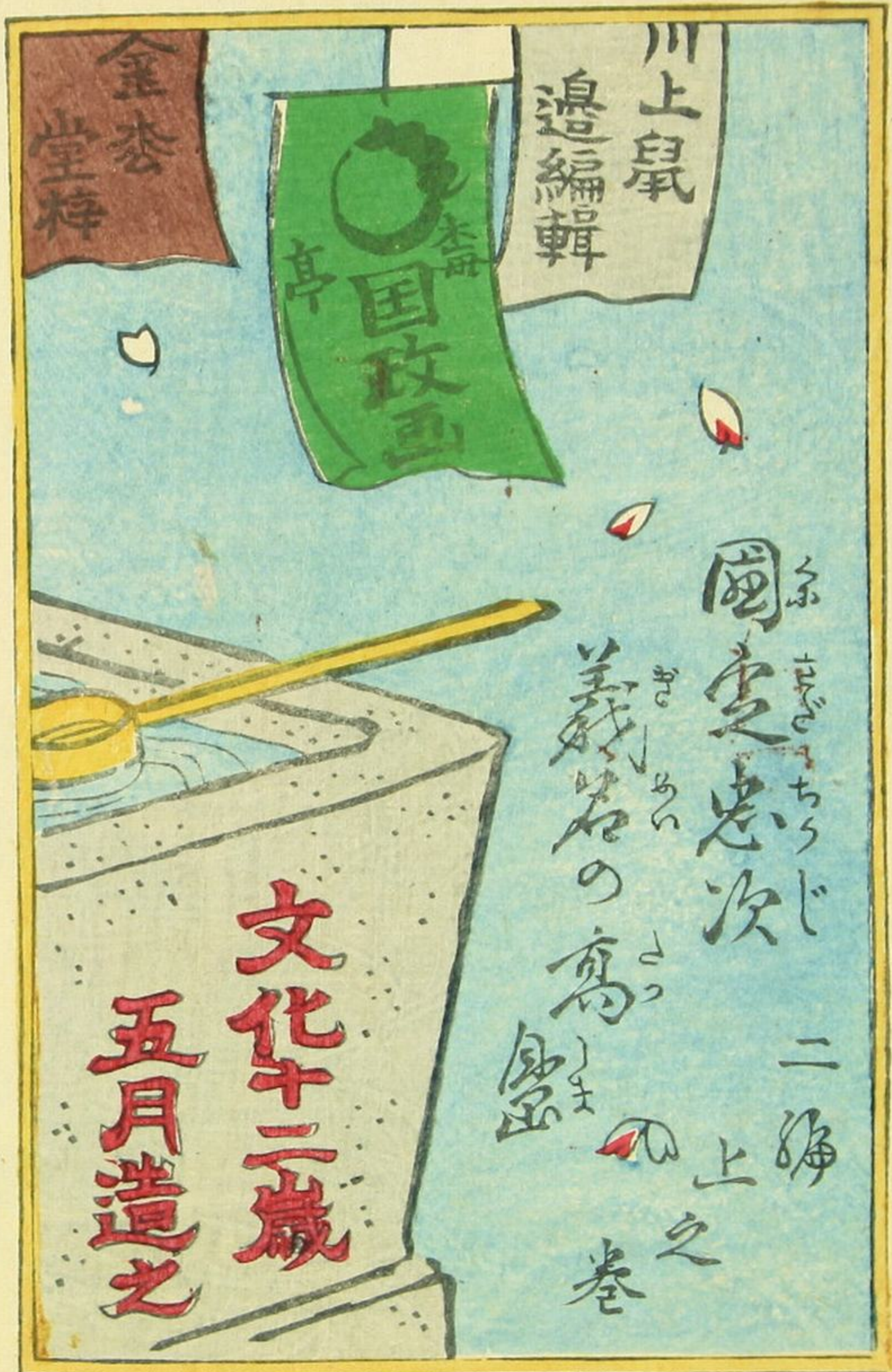
貳編






AK85
Z

48-8212



去年より續く日和りと幸ひ洗濯ませし
 國定を金松堂の何う思ふは不ゆけて初春賣出しを心のまゝ目
 立し早後編とせり立らば年賀の廻りゆとくよ昼夜を机とば
 向ひまゝのぬ筆とぞまじり一心不乱の氣と入て綴揚る二番目の書狂言の名前
 忠治考案の場と極小場 ○市川宗海が笑ひまひとある場
 引えし 困窮忠治を井の邊の好七の子とて回光素禱の途中小將
 にて城難の何小場

明治十三のこー
 ほんやうき

鼠小僧のうらふ住む
 回向齋鼠邊記






女助亡霊



小猿傳吉

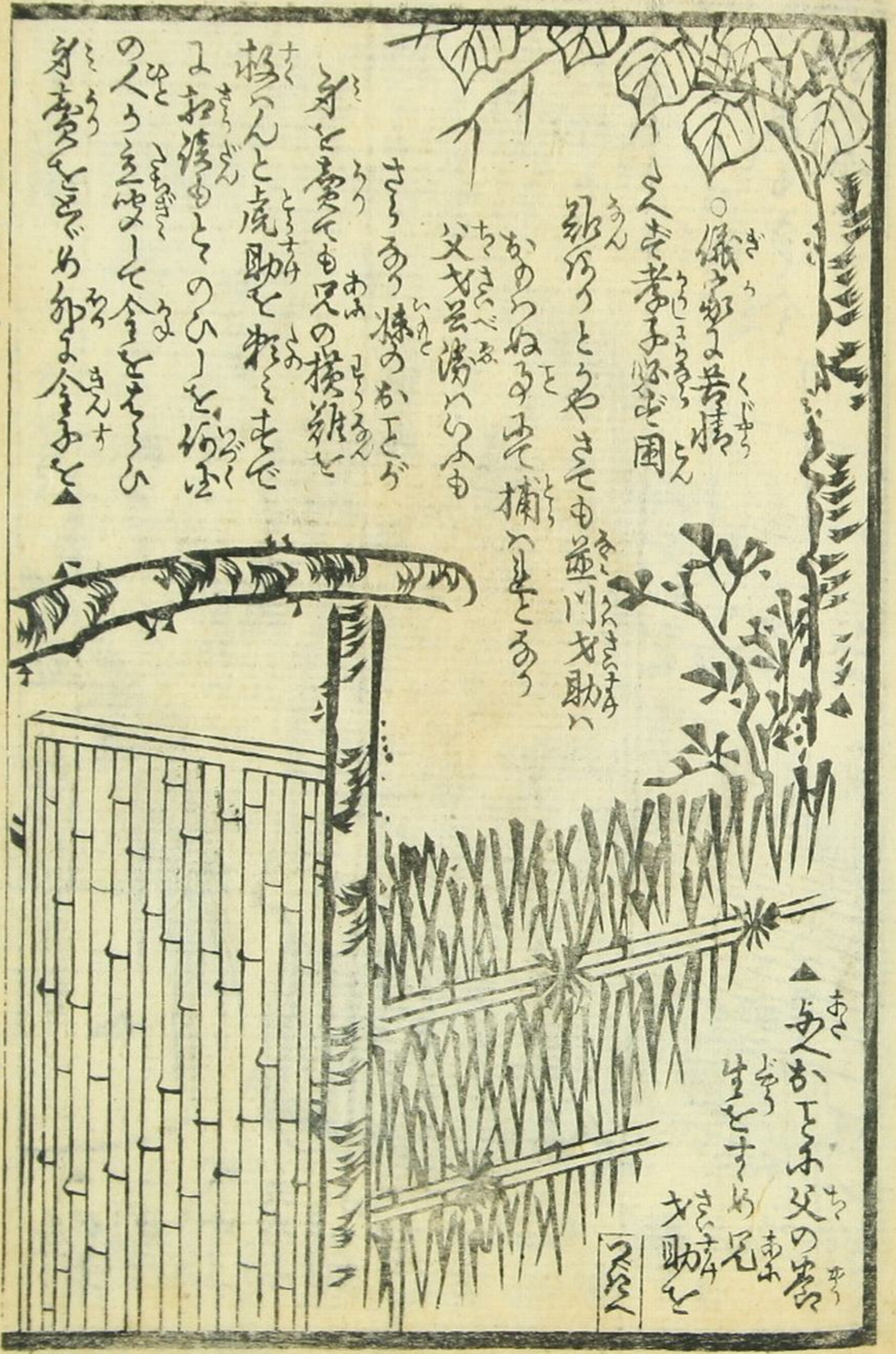
鳴神元山樵松

国定二上

取手小頭
黒井田絶太

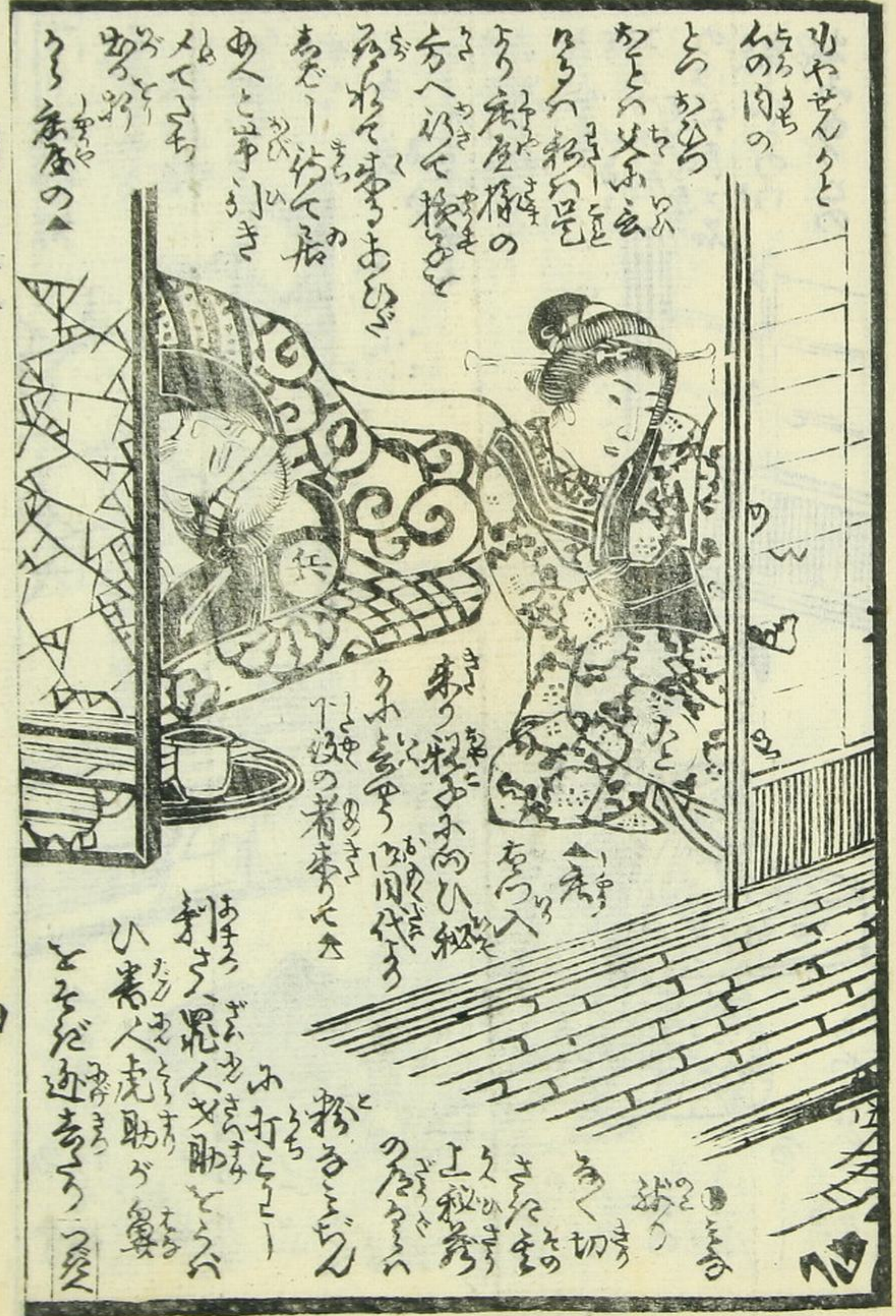


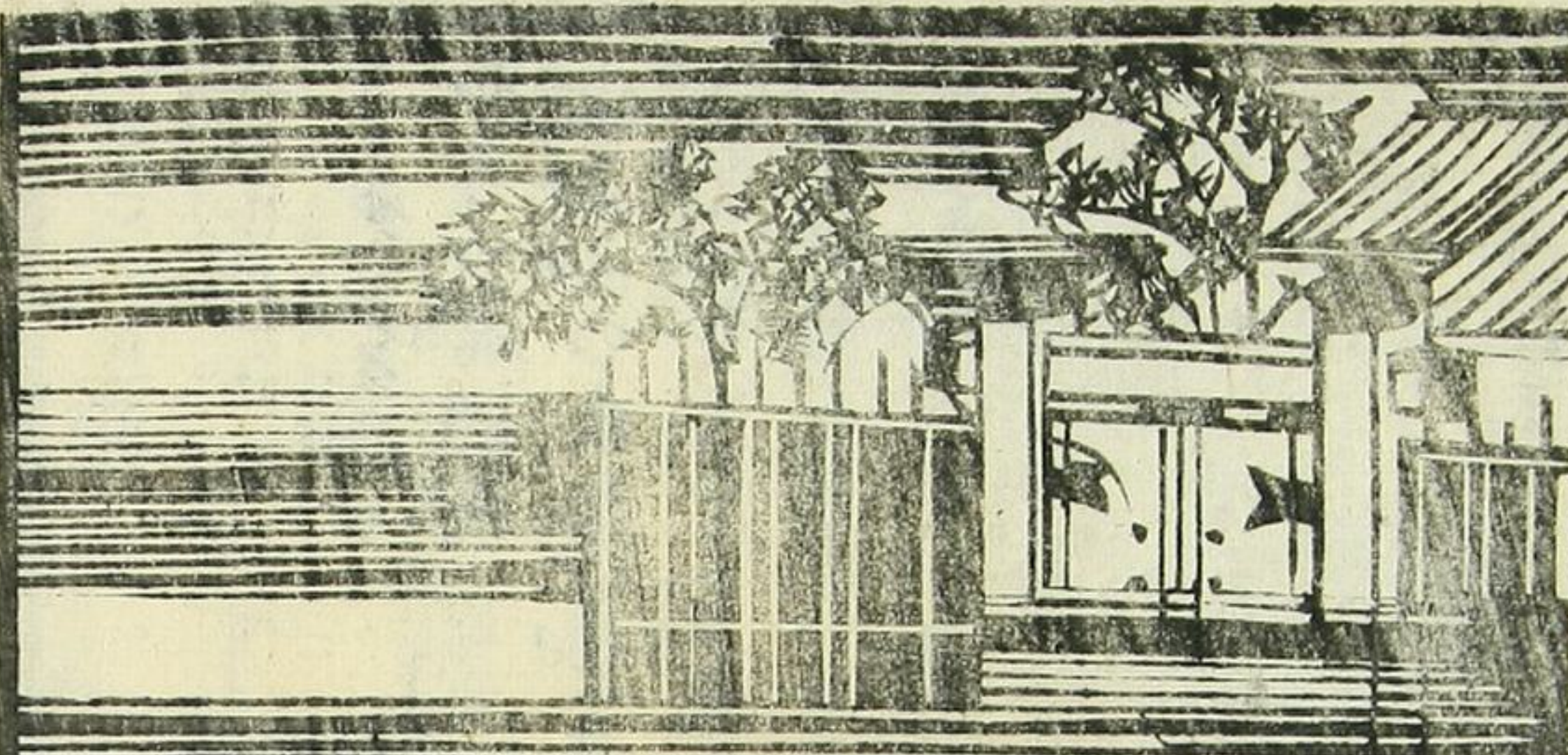
鳴神野呂八子



○儀の如く若侍
と云ふ者も必だ困
ぬ所ありともやさそ由
益川女助の
おのつねり少捕りしとある
父女云清いのみ
さうあり様のか工が
身と愛くも兄の横斬り
杉んと虎助を斬りませ
よお清もとのひしをゆ
の入りまはしを金とせし
身と愛くも必だ困ぬ

▲おか工と父の若
生とすめ兄
女助と





▲此は中役の遊ぶ道具
 出羽一ノ宮のちりま
 叔母の昨夜の空城の
 九百の
 又も
 伝
 人
 同
 九



▲此は中役の遊ぶ道具
 出羽一ノ宮のちりま
 叔母の昨夜の空城の
 九百の
 又も
 忠
 人
 同
 九

梅堂國政畫

元田彫長

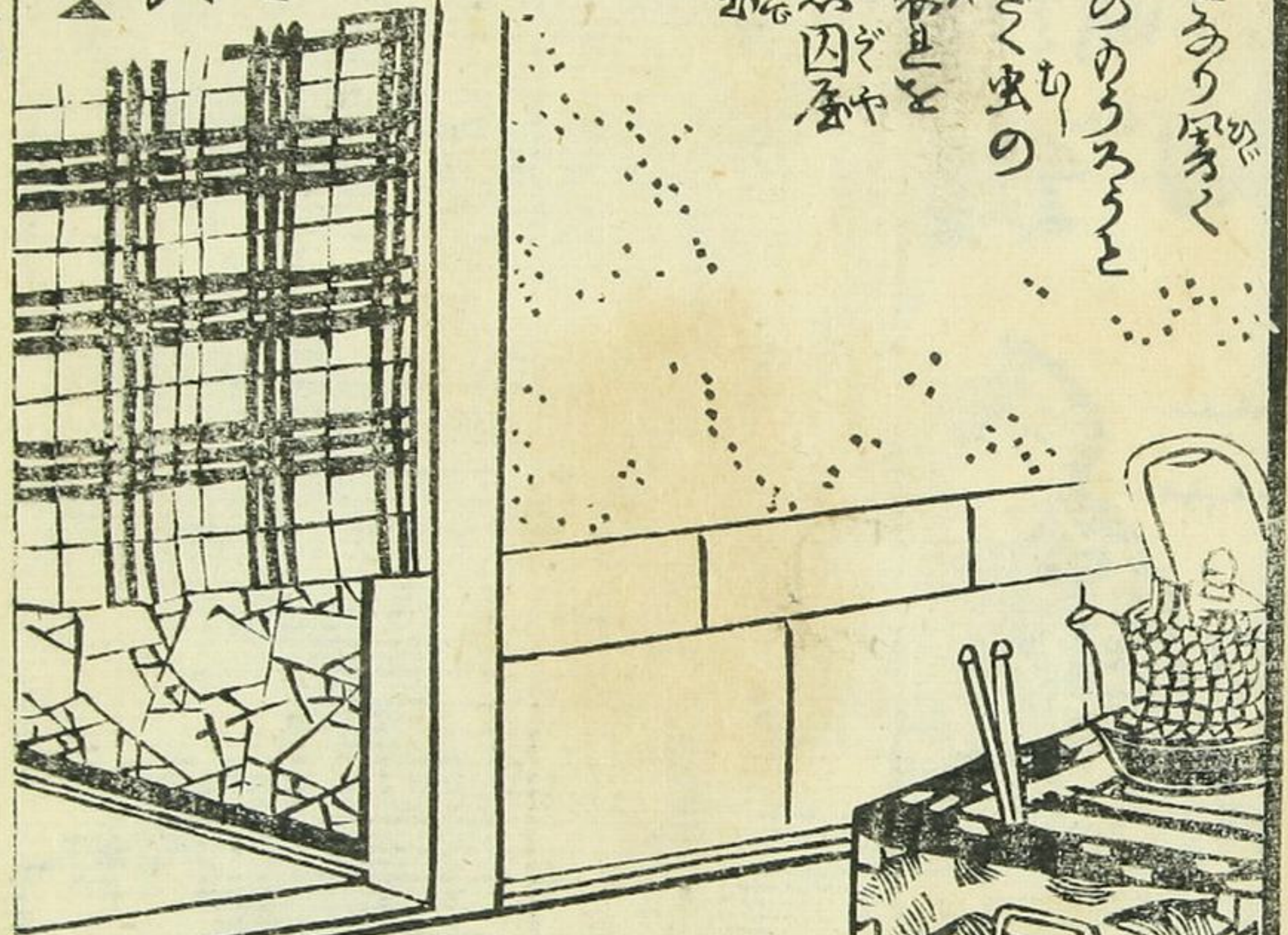
忠義高
國次名島實



中



秋も別とあり写す
 老のの後ののうらと
 子草みまぐく虫の
 春ののら春と
 重ね夜美囚を
 のつるまのわ
 なるうん地
 愛とと女
 助のあて
 二日の夕ま
 参入る用と
 考よこえ入
 らん極ふよ



さのふおろし今舟小友
 ちがふ来合せて軍中用
 主の物茶茶のて湯よ少
 一の茶つた一極ふゆ茶
 皆く由安堵の忠次
 八巻の茶茶茶と存心
 秘の十巻とて女
 云済(女助)の忠次へ

高 義 忠 國
 名 次 定
 二編
 中
 春
 梅堂
 國政画
 川上為造著
 迂岡在
 壽棒

つき湯まゝあづ
 ほど今日いゆる
 う羽五月又たなう
 があうと二ヶ月
 今更と指とうて
 甲斐支もあく
 今月室を虎
 助とらふ愚者
 ぐ金であさまい
 支助が今更
 今日とうらう
 ぞと候て身
 もよものう



か
 みて身をもとめ
 そのうみまの
 うみまの

されて
 支助
 とやら
 と救ふ
 を解ゆ
 やる程よ

是れおひ
 我化を
 夢を金
 そのひ
 兄上の命
 とをひ父
 さぬの
 生とれん
 とのうま
 のお候も
 のひて金と
 文をその
 ふ親方さんの



今更まゝとあり
 一もつておるふ
 ありしとど
 物も
 ぐま
 更
 と
 ま
 迷
 代の氷上氏の
 後へ

者の虎助の
 身とを死
 罪人の七助
 を奪ひ去り
 由之を流すの
 身者との者と
 推察する重箱と
 とを七女を流すを捕せ
 ぬるべしと去るは
 此頃の夜夜に大石草
 人さなとやうんがは
 流すを七女を流すは
 流す



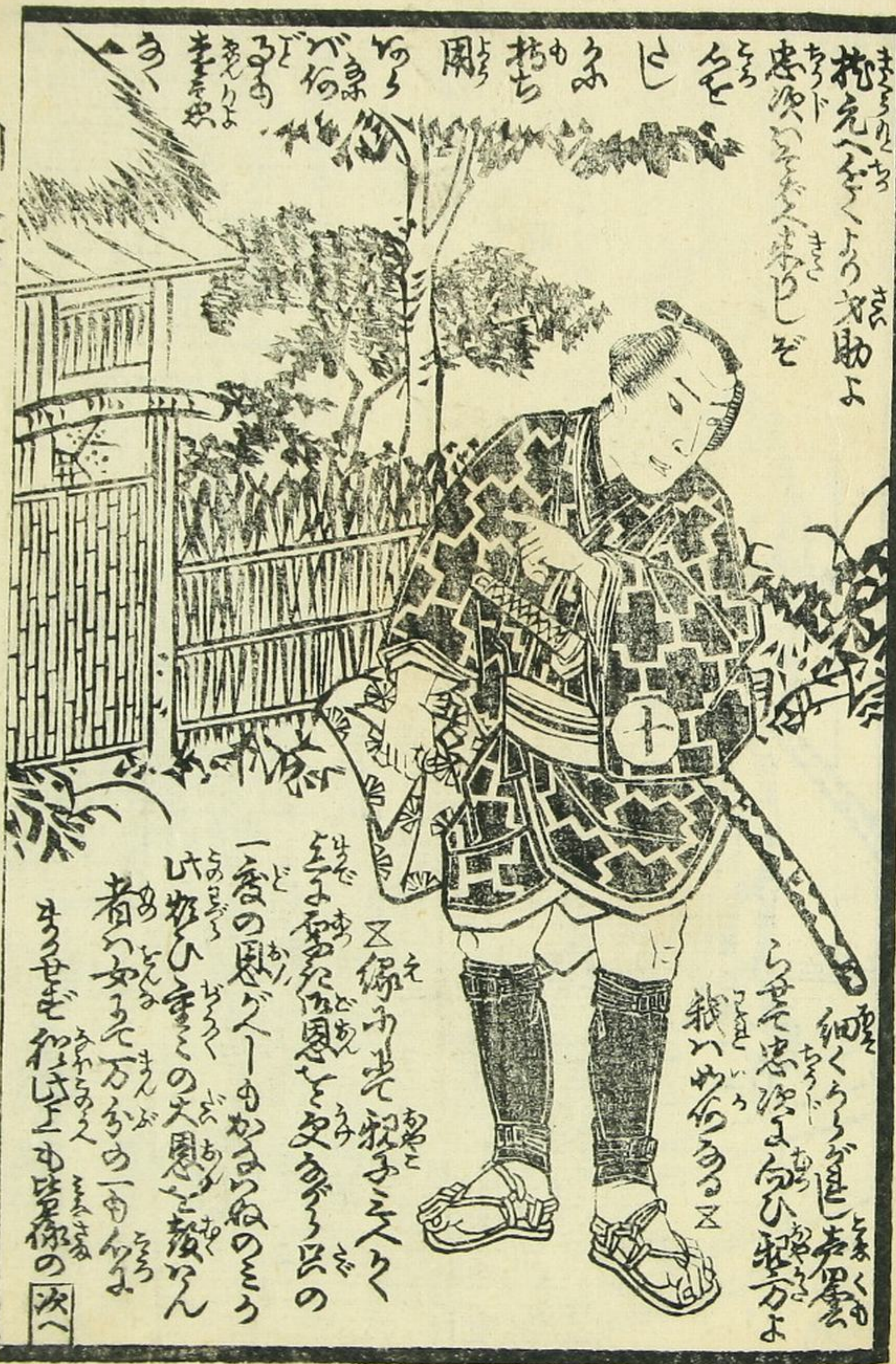
親子の身をよま
 只親父ふそことあり
 兄さんの命の親
 とおぢむ年りをあ
 けり今今日をう
 せも思入の内名が
 知事と
 ねんもあくお茶の
 四つ折紙の
 一と周
 星と声
 星と声
 せと

次を七女を
 りおとく忠
 んのうちを
 修かとの
 まるくと
 さまと

はとの
 びふあり年々
 せんもあひいと
 せそつとつとつ
 うち親万さん
 七助のせつありと
 のおを依よ今ま
 殿を下さる一
 無よ又まも若痛
 名を打多岐の
 おれはあまも
 の元よりあま



あまふん
 不運の二人が
 せと
 このみ
 洞の
 持を
 小
 若
 く眼と
 お
 さ
 ち
 つ



忠
 孝
 節
 義
 廉
 恥
 勇
 貞
 誠
 信
 忍
 和
 平
 温
 厚
 禮
 儀
 廉
 潔
 誠
 實
 忠
 孝
 節
 義
 廉
 恥
 勇
 貞
 誠
 信
 忍
 和
 平
 温
 厚
 禮
 儀
 廉
 潔
 誠
 實

細くうらがはしき
 らまを忠告よ
 我れあつる
 一途の恩
 けねいさ
 者い如る
 者い如る



忠
 孝
 節
 義
 廉
 恥
 勇
 貞
 誠
 信
 忍
 和
 平
 温
 厚
 禮
 儀
 廉
 潔
 誠
 實

忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告
 忠告

平吉 お世帯ふある
 目あふりこ
 姉よ 親と兄との
 大柄いとも全使
 おあつはは父
 ととえ送う
 ろは堂
 一は
 大恩の万
 分の一
 報下



又持る忠臣蔵
 その由
 後の
 目内
 全使
 信の
 湯

又父の
 由
 大恩の万
 分の一
 報下



又父の
 由
 大恩の万
 分の一
 報下

あつちのさる
 ぐう様金の
 ぐうちんあつち
 ぐうと押あつち
 うり済むの
 したあつち
 あるあつち
 とを下あ
 並居る
 今いあつち
 とるあつち
 まあつち
 新てなる



のぬるとぞは居るから
 りのりしどとあつち
 小橋の
 侍者
 小橋
 治と
 幻速
 て日
 屋あ
 立ぬり
 中瀬の波一色小橋治と
 極心もろまろ香橋中
 身の上と因りりまを

七

つぎ
 先づ酒と氣候の色と
 ことあつち
 酒のその内より
 ことあつち
 世の別は境
 つぎ酒の
 先づ氣候
 秋のあつち
 春と酒
 春と酒
 春と酒



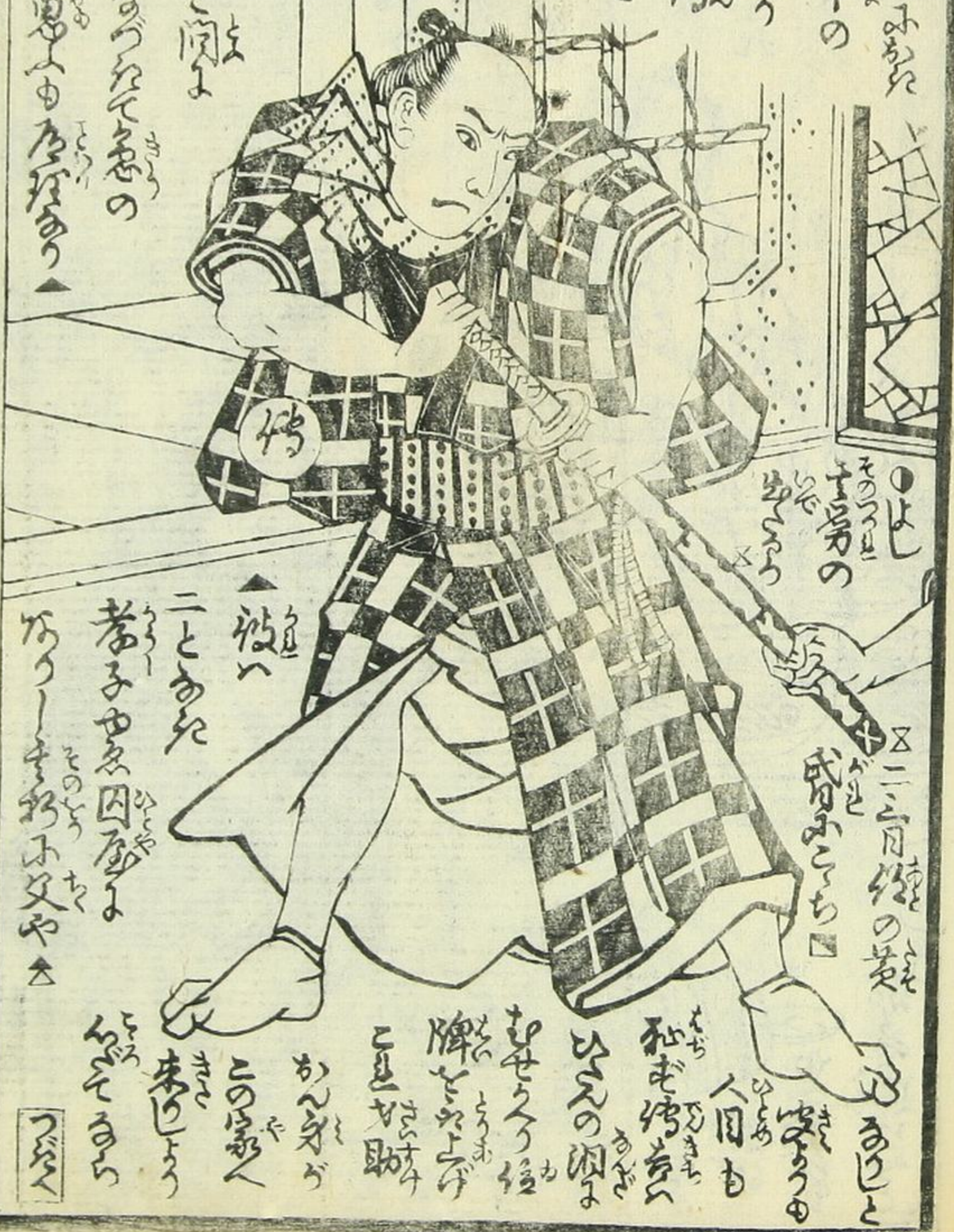
△送るも
 早つち
 小橋
 その翌日
 十巻を
 つぎ酒の
 女あつち
 小橋
 下後
 村へと
 送るもろまろ香橋中
 病好ぬ何ぞと十巻

七

つぎ 忠次ふくしとあ
 侍の小室後...
 一月へも挨拶さむるを
 しと兄...
 助が...
 求め...
 めのと一人...
 立上り...
 勇造...
 めその...
 へつと...
 て侍...
 の...
 〇は
 忠
 〇は
 〇は



侍の...
 女助の...
 姿...
 と...
 者...
 〇は
 〇は
 〇は
 〇は
 〇は
 〇は



忠の者も後
 りぬるはあ
 とみけのやく
 おひらき
 せがもちが
 ちりあま
 文とく
 瘡の



忠の者も後
 りぬるはあ
 とみけのやく
 おひらき
 せがもちが
 ちりあま
 文とく
 瘡の

忠の者も後
 りぬるはあ
 とみけのやく
 おひらき
 せがもちが
 ちりあま
 文とく
 瘡の



忠の者も後
 りぬるはあ
 とみけのやく
 おひらき
 せがもちが
 ちりあま
 文とく
 瘡の

つき 洞のく

真光のまを

いさなのあつた

病室のあつた

者あつたを

遠るあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

いん

とや

とや

とや

とや

とや

とや

とや

とや



近世紀聞

土編迄出版

綾重秋

大尾編

鮮齋永澤

以今追を発売

夜嵐阿鬼奴花仇

大尾編

高橋阿傳夜又譚

大尾編

夜嵐阿鬼奴花仇

大尾編

水錦田曙

大尾編

金花七變化

大尾編

格蘭氏傳倭文賞

大尾編

國定忠次義名高嶋

大尾編

假名垣魯文編註

大尾編

國定忠次義名高嶋

大尾編

假名垣魯文編註

大尾編

國定忠次義名高嶋

大尾編

文 地本問屋

錦繪 金松堂出版 辻岡文助

出校御届明治三年二月書

日本橋區横山町三丁目二番地 編輯人 又或 有平氏 渡辺 義方



下

金松 辻堂 文屋 助 梓



つき少あど下ゆけ
 由る様もよ我由
 續け出退久い
 沼田先一人の械を
 こそ入門はれんと
 あらる如き一人
 の械君ひ来て
 我府先を切り
 込んどうし道どの我
 械とさるさる械ゆ又
 逃且んとひとむと格く
 るりその肉捕へ一械の
 如と我をとり一人の



械切落す小我由
 械ゆたをよ開き
 腕の我を小我
 是とも夜中と
 女おははし
 終よ二人と見え
 るひ結をあら
 立ぬりしう点
 き証もちるる
 我を報るるをゆ
 とらん思ゆ
 吉ふぬひはが様
 なゆあり終り



此僧の本名
三編りて分る

つぎ 出合るる百姓

ありと云々

後家と云々

又

素

と云

及

ま

下

お

ま

ま

ま

ま

ま

ま

●名札とか

と

名

札

と

か

い

は

き

は

い

忠
一
主
の
め
人
美
銀
用
乃
忠
や

御泊所
山

御
山
乃
忠
一
主
の
め
人
美
銀
用
乃
忠
や

梅堂國政



「さきとさきのふとよの友人」
見世のくまのあはれなるよ年の
頃廿八九のいづる愛のあはれなる
やあるはれとくはれなるか
被るる衣と着る衣の
あはれなるの襟巻

川上鼠邊著
梅堂國政畫

日光古峯原講

大吉講

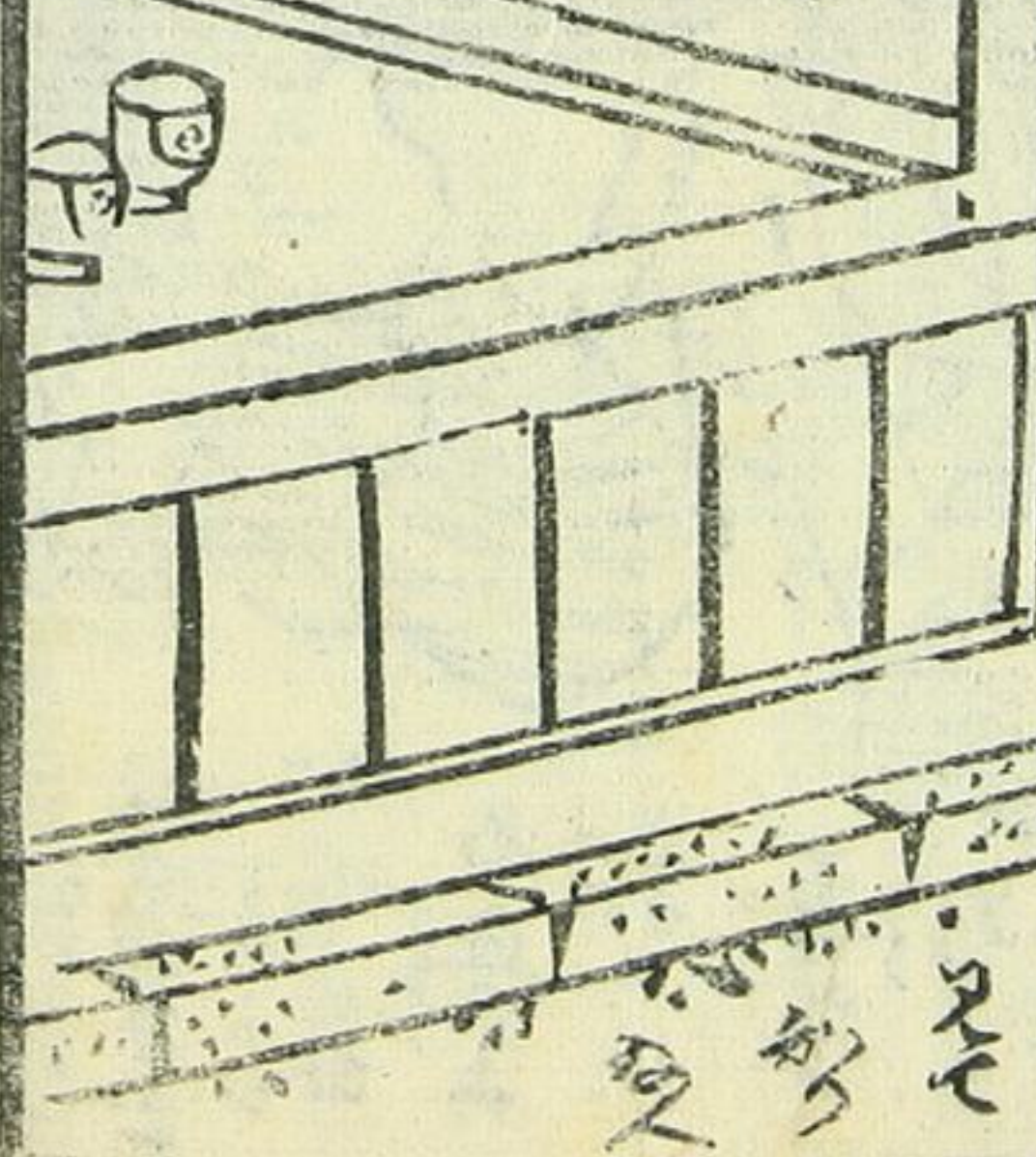
利市講

荒護摩講

日月參講

▲あはれなる衣と
あはれなる衣と
あはれなる衣と
あはれなる衣と

▲あはれなる衣と
あはれなる衣と
あはれなる衣と
あはれなる衣と



近世紀聞
初篇ヨリ
土編迄出版
以下追々発売

伊東野三編輯
綾裏夜紋廻春秋
大尾編

芳川俊雄開
永島孟齋画
夜鷹同窓花仕舞
大尾編

高橋阿傳夜双譚
大尾編

魚文作
金花七變化
次編出版
追々出版

水錦隅田曙
大尾編

秀賀作
濡衣女鳴神
大尾編

梅堂國政画
格蘭氏傳倭文賞
大尾編

國貞画
濡衣女鳴神
大尾編

出版御届明治三十三年二月二日

本町區元町廿五番地

金地本問屋
錦繪

編輯人 川上謂一郎
日本橋區横山町三丁目三番地
金松堂出版人 辻岡文助

